



発刊に寄せて

加古川市長 岡田 康裕

加古川市人権・同和教育協議会が発足50周年を迎えられ、この度、50周年記念誌を発刊されますことを心よりお喜び申し上げます。

貴協議会におかれましては、1970年の発足以来、「差別の現実から深く学び、人を大切にする」という同和教育の理念を身近な生活に位置づけ、人権が尊重される社会づくりの実現を図るため、中心的な役割を担っていただいていることに深く感謝申し上げます。

さて、加古川市では昨年度、「ひと・まち・自然を大切にし ともにささえ はぐくむまちづくり」を基本理念にする加古川市総合計画を策定し、様々な取組を推進しています。総合計画に掲げる、まちづくりの基本目標の一つである「心豊かに暮らせるまち」を実現するためには、市民一人一人が自分と他人との違いを認め合い、思いやりをもってお互いに尊重し合うことが大切です。

本市では、2015年に人権教育・啓発及び人権相談の拠点施設として、加古川市人権文化センターを開設し、市民の皆様との協働による人権文化の構築に努めてまいりました。また、2018年には、「加古川市人権教育及び人権啓発に関する基本計画」を策定するとともに、人権教育・啓発の様々な施策を推進し、人権課題の解決に取り組んでいます。

しかしながら、私たちの身の回りには依然として様々な人権問題が存在しており、グローバル化や少子高齢化、情報社会の急速な進展など、社会情勢の変化に伴い人権問題も複雑化、多様化しています。市民一人一人が人権について正しく理解するとともに、人権問題を自身の問題として認識する人権教育・啓発活動がますます重要になってきています。

発足50周年を迎えられた貴協議会には、これまでに積み上げてこられた貴重な実践と体験を踏まえ、今後も人権教育・啓発活動の推進役として、充実した活動を展開していただくことを大いに期待しております。加古川市においても、貴協議会とより一層の連携を図りながら、引き続き人権施策の推進を図ってまいりたいと考えています。

終わりにになりましたが、加古川市人権・同和教育協議会のますますのご発展と、協議会員の皆様のご健勝にてのご活躍を心よりお祈りいたしまして、発刊のお祝いの言葉といたします。